

版画をつくってみよう!

プレス機体験ワークショップ

3月18日(日) 昼1時~4時(受付は3時まで)
公民館 1階市民交流ロビー

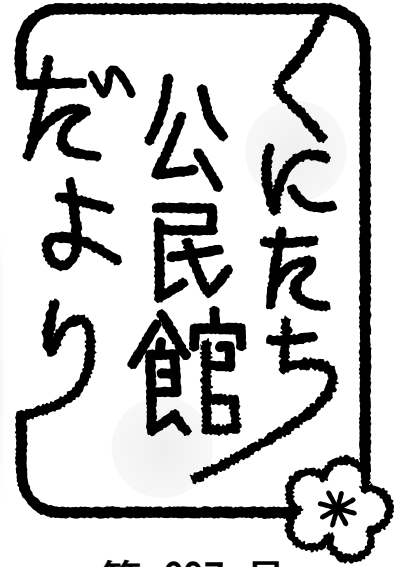
プレス機を使って、版画づくりを体験してみませんか? 紙の版(ドライポイントプレート)とプレス機を使って版画を作ります。紙の版に、線を描いたり、切ったり、はがしたりして、インクを詰めて刷ると、銅版画のような作品ができて上がります。

講師 タダ ジュン (イラストレーター・版画家)
さかた きよこ (版画家)
山本 佳奈枝 (版画家)

持ち物 エプロン(よごれてもよい服装)、ハガキサイズの下絵(なくても可)

*所要時間は1時間程度です。事前申込み不要。ただし、定員を超えた場合は、締め切らせていただきます。

定員 30名程度 (当日先着順・入替制)
参加費 200円



第 697 号

2018年3月5日 (平成30年)

発行

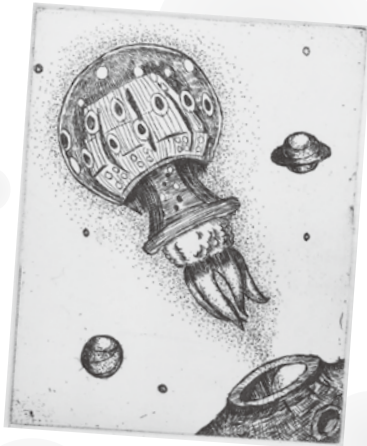
国立市公民館

〒186-0004
国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日: 毎週月曜日



同時開催!

「はじめての銅版画」展

1月~3月まで実施した「はじめての銅版画」の作品展を行います。一人ひとり個性豊かな作品ができました。ぜひ見に来てください!

とき 3月13日(火)~18日(日) ところ 公民館
(最終日のみ夕5時まで) 1階市民交流ロビー



問合せ
公民館 ☎ (572) 5141

講座事例③ 認知症とともに生きる (認知症映画会)

担当職員による発表

超高齢社会の問題・地域課題を考える「老いとケア」講座の一環として、「認知症」をテーマに取り上げた全4回の映画会を開催。介護者・地域の人々の認知症や当事者への理解を醸成することを目指しました。上映後には、ゲストを招いてトークセッションを行ったり、参加者が感想や介護体験を話し合ったり、介護経験者3人のお話を聴く会等、様々な形を試みました。試みの多くは、参加者が回ごとに振り返って検討し、実行委員会を立ち上げて公民館と共同実施したものです。映画を通じて認知症の認識や介護観を見直すきっかけが生まれた一方、個々の悩みや問題の解決、専門的な学習や社会資源につなげることの必要性が課題として浮上しました。

参加者による主な議論

- ・「認知症」という問題をテーマに、市民が繋がって学んでいる事例といえる。映画を見て話し合う、という形式にしたことも参加者が気楽に話せて良かった。
- ・話し合いや交流の場から、次の企画案などが提案され、市民の意見を吸い上げることができた。また、介護中の方が、介護経験者の話を聞いたり、職員から情報を得たりして、認知症についての理解を深め、学ぶ機会を提供することができた。
- ・実行委員会が共通の問題意識をもつ市民同士の交流の「場」になったことが良かった。
- ・今後は介護保険制度や市内の関係施設など、認知症と関わる社会や福祉のしくみを考えていく取り組みが求められるのではないか。

講座事例④ 市制施行50周年記念事業 (公民館企画・学長対談)

担当職員による発表

市制施行50周年記念事業の一環で、公民館が企画した講演会。「まちを知る、地域から学ぶ」講座の位置づけのもと、いずれも国立市出身の一橋大学長と京都大学総長を招き、次代へのメッセージを込めた講演や「くにたちのまちの魅力」についての対談、若者からの質疑応答を行いました。300名を超える申込・参加がありましたが、若い世代の参加率は低調でした。アンケートでは、若者向けの企画の機会や周知を増やしてほしい、若者を意識した企画ならば内容や切り口を工夫すべきといった主旨の声がありました。公民館の講演会は全般的に若い世代の参加が少なく、学びのおもしろさを伝えることが課題です。

参加者による主な議論

- ・一橋大学長の^{たけなま}蓼沼宏一さんと京都大学総長の^{やまざわ}山極壽一さんが、二人とも国立市出身ということで企画された対談で、市制施行50周年記念事業に相応しい内容だった。
- ・国立市の昔の写真を見ながらの蓼沼さんと山極さんの思い出話に、特に年配の市民が熱く盛り上がっていたのが印象的だった。記録として残すための小冊子を作り発信してはどうか。
- ・若者の参加を促す企画として相応しかったかどうか等、事業の枠組みに疑問もだされた。

市制施行50周年記念事業の対談風景



総勢45名で議論しました(第3部)

・市民の「学び」を丁寧に聴き取り、学びの当事者に視点をあてた議論が弱かったのではないかと(職員)。

・実際に参加していない市民から、事業の枠組みや企画そのものに対する意見が出されるなど、公民館事業をより良くする建設的な声が聴けた(職員)。

・「公民館だより」紙面上に載る講座参加者の感想は肯定的なものになりがちですが、課題、反省も含んだ生の声を聞くことが出来た点が有意義でした(参加者)。

・講座はやりっぱなしになりがちであるが、こうした振り返りを行うことにより、次の講座を充実させることが可能となる(参加者)。

全体を通して寄せられた感想 (アンケートより抜粋)

みんなで話そう公民館講座

—市民と職員で「学び」をふりかえる会—

第31期公民館運営審議会

市民と公民館職員が一堂に会して、これまでに公民館が主催・実施してきた講座について、その位置づけ・目的・内容・成果・課題など、多様な観点から「学び」をふりかえる試みが催されました(2018年1月7日、地下ホールにて開催)。当日は4つの講座を事例として、企画・運営に携わった職員による発表(第1部)、市民と職員を交えたテーブルディスカッション(第2部)、まとめ・共有(第3部)が行われました。今回はその要旨をご紹介します。

担当講座を発表する職員(第1部)



*本会は、第31期公民館運営審議会が、第30期の答申「国立市公民館の事業評価のあり方について」で提起された二つの項目の一つ「公民館活動をふりかえる会—公民館研究集会の取り組み—」の具体化を公民館長より提案され、企画・運営したものです。

講座事例① くにたちブッククラス (文学講座)

担当職員による発表

課題図書を読んで参加し、参加者同士の感想発表や講師による解説・質疑応答を行っている講座。1977年以来、名称を変えつつ毎月1回継続されてきました。共同して作品の読みを深め合うことで読書力や心の豊かさを養い、性別・世代・社会的背景を超えて集うことで楽しめる時間や共有できる考えなどに接する機会づくりを目指しています。課題図書の選定や文集づくりなど、参加者とともに運営や作業を行っている面も特徴の1つです。参加者のアンケートからは、感想を発言・表現し合うことの喜び、多様な意見の尊重、文学観の広がりといった声が見受けられます。幅広い年代の方々に継続参加していただくことが大切で、今後の課題です。

参加者による主な議論

- ・くにたちブッククラブは、市民が図書室で本を読む活動を始め、のちに市民主体の読書会として40年続いている。市民同士の意見交流だけでなく、講師から本の全体像や考える視点を学べる点が重要である。
- ・1年の最後に行われる文集づくりなど、市民・職員・講師の三者が共同で作り上げる学習活動になっている。
- ・ずっと参加している参加者や、若い世代の新規参加者、毎回は参加できず来たり来なかったりするメンバーなど、いろいろな参加者をつないでくれるのが職員だ。
- ・特定の作品に関心をもってくれる新規参加者や若い世代には、直接声かけするなどのフォローがあると良い。



参加者によるテーブルディスカッション(第2部)

講座事例② ふれあいひろば (世代間交流事業)

担当職員による発表

「共生の地域社会を育む」世代間交流事業という位置づけのもと、小学生やその保護者に向けて、地域の団体に活動しているシニア世代が中心となり、昔遊び、ものづくり、音楽などの体験型交流プログラムを提供する催し。小学校の夏・冬休みに合わせて年1回実施し、事前に積極的な告知を図ることで、市内全域から子どもたちの参加があります。未就学・低学年児が多く、ふだん公民館利用が少ない若年の保護者が一緒に来館する契機にもなっています。子ども・保護者、シニア世代の双方から、学びや活力を得た、日頃の活動への参加につながった等との声がありました。今後も世代間に限らず、多様な交流のしくみづくりが求められます。

参加者による主な議論

- ・世代間交流事業として、広報の方法が話題になった。チラシを市内小学校に配布したことで、普段公民館に来ることが少ない子どもやその保護者世代に直接情報を届けることができ、効果が見られた。
- ・これまで公民館の利用者として子どもが想定されてこなかった側面もあったが、この世代間交流事業をきっかけに、公民館を継続的に利用する親子も見られるようになった。最近では、子連れの父親の参加や、他の講座でも若い男性が増える傾向にある。
- ・今回のふりかえる会では、参加した子ども・親が出席できず残念だった。今後は、企画の段階から子どもが積極的に関わられるものを立ち上げてはどうか。
- ・公民館を頻りに利用する人たちと、新しい人たちとの交流もできると良い。

〈図書室のつどい〉

『それでもパレスチナに木を植える』

講師 高橋 美香 (写真家)

米国トランプ大統領の発言により、再びパレスチナ問題が日本でも注目されています。

著者の高橋さんはパレスチナに何度も足を運び、現地に暮らす「家族」の一員としての生活を通して、パレスチナに生きる人々の日常をこの本の中に描き出しています。

不当に逮捕されたり、検問所の通行許可証が発行されずエルサレムの病院に入院した息子を見舞うことさえ出来ないパレスチナの現状。しかしその中にも、友人とカフェでお茶をしたり、夫婦喧嘩をしたり、日本で暮らす私たちと同じような「日常」があるのです。

高橋さんが現地でも撮った写真を見せていただきながら、パレスチナの現状を知る機会にしたいと思います。



〈高橋さんの本〉

表題作の他、『パレスチナ・そこにある日常』(未来社)、写真集『ボクラ (Bokra)・明日、パレスチナで』(ピーナス)。

とき 3月31日(土) 昼2時～4時半

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

病気の子ども 「きょうだい」支援

講師 清田 悠代 (NPO法人しぶたね)

もし子どもが大きな病気になったら……。親や周囲の大人たちの目は、病気の子どもに注がれます。しかしその中で、不安や寂しい気持ちを胸にしまいこみ、がまんしている「きょうだい」がいることにお気づきでしょうか。感染予防のために子どもは病棟へ入れないこともあり、外で一人、待ち続けているきょうだいがいることを。

今回は大阪で、そんな「きょうだい」が安心して自分の気持ちを話せる場所や人を増やすための支援活動、きょうだいの居場所づくりを行っている清田さんにお話を伺います。また、同じ地域で暮らす私たちには何ができるのか、考える機会にもしたいと思います。

とき 4月14日(土) 昼2時～4時半

ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(申込先着順)
申込先 3月9日(金) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

—公民館・ボランティアセンター共催防災講座—

地震だ！ どうする？ 体験ゲームLabo

～子ども・親子・地域のみんなで備える学び～

阪神・淡路大震災や東日本大震災以来、わたしたちは災害への備えを意識するようになりました。でも、いざという時、自分や家族の身を守るには？ 孤立して困らないようにするには？ 地域のつながりってどうやってつくる？

今回は、そんな疑問が解消できる災害時に役立つ行動をゲーム形式で体験します！ ゲームのあとは“アツアツの炊き出し”を試食しながら、防災への備えについてみなさんと考えたいと思います。防災備品の試供品も配布予定です。お気軽にご参加ください。

とき 3月17日(土) 朝10時～昼1時
ところ 公民館 1階市民交流ロビー、地下ホール
定員 80名(当日先着順) *申し込みは不要です。
呼び掛け 国立市自主防災組織(中地域) / KUNIBO
/ 国会会中の会 / 公民館利用者連絡会
/ なかなかいい会

協力 防災安全課

〈一橋大学連携講座〉

〈分類〉について考える

～くにたち文教マッピングに向けて～

2017年に開催した5回連続講座「街角にいつも大学がある～くにたち文教マッピング～」では、参加者のみなさんと一緒に、市内の様々な「学びの場」について調べました。公民館講座やサークルをはじめとして、街では日々、多くのことが学ばれています。

他方、市内の二つの大学でいつも何が学ばれているのか、知る機会実は多くありません。街と大学が切り離されているのは勿体ない！ ふたつの学びを重ね合わせて、トータルな「くにたち文教地図」を見てみたい。そんな野望を、「くにたち文教マッピング」は抱いています。

今回は第二弾のためのイントロとして、「分類」という行為について考えてみます。植物や動物と同じように、「学問」にも分類があります。公民館講座も種類別に「分類」されていますし、図書館の本も「分類」されています。人はなぜものを分類するのか、分類とはどういう意味を持つ行為なのか。一見細かい「分類」が背後に持つ壮大な世界へご案内します。

回	月日	テーマ	講師(所属)
1	3月25日	「分類」とは何か ～図書分類の歴史と技法～	長名大地 (一橋大学図書館員)
2	4月8日	「分類」を通して世界を見る ～言語・記憶・ユニヴァース～	長名大地 / 武村知子 (一橋大学言語社会研究科)

いずれも日曜日 昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(申込先着順)
申込先 3月8日(木) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

公民館・NHK学園高等学校共催

“つながりワークショップ”がつくった 「こども・わかものくにペディア」 ～つながるまっぷつき～ もうすぐ発行！



公民館とNHK学園高等学校が2016年9月から続けてきた「つながりワークショップ」が開催10回を数えました。ここでは、地域で子ども・若者向けの居場所や学習活動、保護者などの支援を行う様々な団体の取り組みを学び合ってきました。一度でも参加された方も含めれば、これまで80名を超える多くの方々が参加されました。そして、様々な団体の活動を通して変わっていき子どもたちや若者たちの姿、そこに関わる人たちの姿がいまいきと語られてきました。



作業部会で議論を重ねてきました

しかし一方で、そうした地域の貴重な活動や団体の取り組みが支援者や関係機関にも知られていない、必要な子ども・若者、その保護者に情報が届いていない、という課題も指摘されてきました。国立市でも、社会問題になっている子どもの貧困、若者のひきこもりなどの実態が見えてくるなかで、支援のネットワークをつくっていくことも重要な課題になっていきます。

〈公民館・NHK学園高等学校共催〉 子ども・若者を支える“つながりワークショップ” —「くにペディア」発行からその先へ—

講師・コーディネーター
長田 英史 (NPO法人れんげ舎 代表理事)

近年の子どもの貧困や若者の自立をめぐる地域の関心の高まりを背景に続けてきたこのワークショップ。ワークショップのなかで取り組んできた「こども・わかものくにペディア」がいよいよ発行されます。これを機に関係する取り組みが、子ども・若者へ伝わり、さらに活動が広がっていくためにできること、必要なことを考えます。

今回は、このワークショップの初回にお越しいただいた長田さんに助言をもらいながら、“これから”を議論します。初参加の方もお気軽にご参加ください。

とき 4月1日(日) 昼2時～5時
ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(申込先着順)
申込先 3月7日(水) 朝9時から
公民館 ☎ (572) 5141

次回のご案内はこちら！

動を、①相談する ②学ぶ・働く ③遊ぶ・食べる・集まる 3つに分けて掲載しています。まずは手にとってみてください！



裏は大きな地図が広がります

〈認知症とともに生きる〉第2回講座 老いの意味を考える ～認知症を問いなおす～

お 話 大井 玄 (東京大学名誉教授)

認知症について、私たちは恐い「病氣」だという認識を植えつけられています。はじめはもの忘れがひどく、次に場所がわからなくなったり判断ミスが起きたりして、最後は家族の顔も認識できなくなる、治療が困難な病氣——だと。

しかし、終末期医療に取り組み続ける医師・大井さんは、認知症を人類に共通する生物学的に自然な現象＝「老耄」の現れだと捉えます。生存に必要な能力が低下する老耄の意味、老いと死について、医学と哲学をまたいで思索を続けてこられた大井さんのお話から考えます。

と き 4月12日(木) 昼1時30分～3時30分
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*申し込みは不要です。ご自由においでください。
*認知症とともに生きる実行委員会との共同企画です。

場所 東福祉館
日時 火、土曜日朝10時～11時半
連絡先 齋田(576) 0316

気功 太極拳「宙の卵」
調心、調息、調身。心と体と呼吸をひとつにして動かすことで、大自然につながる感覚を感じましょう。老若男女誰でも自分の状態に応じて稽古できます。



ひるばび
(8ページにもあります)

場所 谷保、矢川、広場コート他
日時 毎週土日中心に朝2時間
連絡先 佐藤(574) 9559

ダイヤモンドテニス会員募集
男女問わず一緒にゲームを楽しみませんか。特に40～50代、市内在住の方歓迎。合宿やお花見等イベント(自由参加)もあります。お気軽に体験にお越しください。

場所 公民館 音楽室
日時 毎月第一第三(木)昼2時
連絡先 林080(436) 8033

花のゆりかご 会員募集
プロ歌手の指導による発声とカラオケ練習。歌だけでなく普段の会話の声も活き活きとします。お仲間と明るく楽しく歌を唄いませんか。見学者歓迎連絡下さい。

〈男性の料理入門 春休み特別企画〉 子どもと作る 肉まん・あんまん!

講 師 北川 みどり (管理栄養士)

春休みのお昼ご飯を、お父さんと一緒に作ってみよう!今回は中華まん(肉まん・あんまん)にトライします。皮から作る本格派です。生地をねかせている間に中に入れる具をつくります。合わせて、中華スープと果物のデザートも作ります。

と き 4月1日(日) 朝10時～昼1時
場 所 福祉会館 3階料理講習室
定 員 親子8組(お祖父さんでも可)(申込先着順)
費 用 一組(子ども1人まで)1,300円
(子ども2人まで)1,500円
(子ども3人まで)1,600円

3月24日(土)までに公民館へお支払いください(受付時間:月曜日以外の朝9時～夕5時)。当日払いはできません。食材購入後のキャンセルは実費をご負担していただきます。

持ち物 エプロン、三角巾(タオル可)、筆記用具、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)、ふきん(台ふき用、皿ふき用)
申込先 3月10日(土)朝9時～
公民館☎(572) 5141

〈社会体育事業〉 「小学生の初心者水泳教室」

と き 4月11日、18日、25日、5月2日、9日、16日、23日、30日 毎週水曜日、計8回
午後4時～6時(初回は午後3時50分集合)
ところ く に たち 市 民 総 合 体 育 館 室内プール
費 用 無料

指導員 保坂 智子(国立市スポーツ推進委員)
(他助手数名)

対象・定員 平成30年4月1日以降 市内在住・在学の小
学生、新4・5・6年生 計40名(泳ぎの苦
手なお子さんが対象です)
*応募者多数の場合は抽選。参加が初めての
新5・6年生が優先となります。

申 込 往復はがきの往信用裏に住所・氏名(フリガ
ナ)・学年(平成30年4月1日以降の新学年)・性
別・緊急連絡先電話番号を、返信用表にも住所・
氏名を明記の上、お申し込みください。
*はがき1枚につき1名。複数名の記載、記載漏
れの場合は無効とします。

申込締切 3月22日(木) 必着
申込先 〒186-8501 国立市教育委員会 生涯学習課
「小学生の初心者水泳教室」係
問合せ 生涯学習課社会体育担当☎(576) 2107(直通)

〈多文化共生事業〉 世界の子どもたち ～世界の教育の現状を考える～

講 師 片山 信彦
(国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン)

多くの国々では、教育を受けることは義務であり、権利とされています。しかし世界に目を向けると、教育を受けることが当たり前ではない国々が、いまだに多くあります。性別、貧困、紛争や難民、災害、宗教などが、子どもたちの教育の環境や質にどのように影響しているのか……実際に世界各地で活躍している片山さんに、現状や課題についてお話を伺い、子どもたちの教育について考えてみませんか。
当日午後2時より『世界の果ての通学路』の上映も行います(右記、映画会の案内参照)。映画でも様々な子どもたちが直面している教育環境について取り上げられていますので、ぜひ合わせてご参加ください。

と き 3月25日(日)
開始時間 開始時間
昼3時30分ごろ～5時
(映画上映終了後すぐ)
ところ 公民館 地下ホール
定 員 85名(当日先着順)
*申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈わたしたちのワークライフバランス〉第3回 〈働き方を変える〉の これまでとこれから ～過労死遺族たちの30年と教育現場での取り組み～

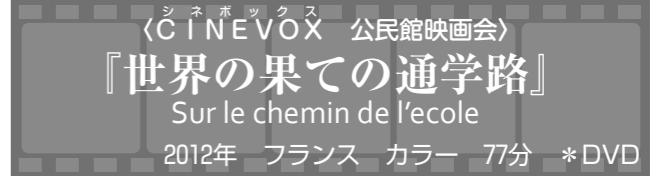
講 師 寺西 笑子
(全国過労死を考える家族の会・代表世話人)

コーディネーター 池谷 美衣子(東海大学)

いま国会が議論する「働き方改革」はどこに向かうのか。わたしたちのワークライフバランスをどうつくるのか。このことを考えてきた連続講座・第3回目は、働き方は誰が変えてきたのか、という視点から、「全国過労死を考える家族の会」の30年の取り組みに学びます。裁判などのつらい闘いを支えあい、「明日はなくそう」と過労死防止を呼び掛けてきた運動のこれまでとこれからのを伺います。

と き 3月24日(土) 朝10時～12時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(申込先着順)
申込先 3月7日(水)朝9時～
公民館☎(572) 5141

夜7時15分から。傍聴歓迎。(大井)
○東京都公民館連絡協議会
第54回東京都公民館研究大会
を2月3日(土)開催。第2分
科会で、国立市は「みんなで話
そう公民館講座」を発表した。
次回定例会は3月27日(火)
た。
○社会教育委員の会
国立市における生涯学習振
興・推進計画(仮名)に関する
今期の社会教育委員の課題案に
ついて、集中チェックが行われ
た。
○公民館だより編集研究委員会
受講参加者の声が多く載り好
評であった。「ふりかえる会」
について、新鮮な意見を自由に
討論する場にしたらどうかとの
感想あり。
○委員会より
人事要望に関する教育長、市
長との面談状況に関する報告あ
り。文部科学省機構改革につい
て意見書を出したいとの提案は
別途審議。
○公民館だより編集研究委員会
別途審議。
○公民館だより編集研究委員会
受講参加者の声が多く載り好
評であった。「ふりかえる会」
について、新鮮な意見を自由に
討論する場にしたらどうかとの
感想あり。



監督 パスカル・プリソン
広大なサバンナを4時間かけて学校に通うケニアの兄妹。パタゴニアの原野を馬に乗って通学する兄妹。女の子3人だけで危険な山道を越えるモロッコの少女たち。二人の弟が足の不自由な兄の車椅子を押して毎朝学校まで通うインドの少年たち。それでも子どもたちは、おしゃべりしながら、歌いながら、時にはケンカや寄り道しながら、喜々として学校へ向かう――。

日本や欧米では考えられないほど過酷で危険な道のりを、何時間もかけて通学する子どもたちの姿を通して、〈学校〉とは何か? 〈教育〉とは何か? を問いかけ、セザール賞をはじめ数々の映画賞に輝いたドキュメンタリー映画の名作。

と き 3月25日(日)
開始時間 開始時間
昼2時～(開場1時)
ところ 公民館 地下ホール
定 員 85名(当日先着順)
*申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈親子で遊ぼう・考えよう〉 2000個の洗濯バサミで 動物の森をつくろう!

講 師 山田 修平
(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

洗濯バサミを足に見たてて、厚紙を使ってオリジナルの動物を親子でつくります。出来上がった動物たちを、みんなで作る素敵な森で遊ばせてみましょう。

と き 3月18日(日) 朝10時～12時
ところ 公民館 地下ホール
持ち物 動きやすい服装 ハンドタオル 飲み物
対象・定員 子ども(2歳以上～小学生低学年)と保護者
16組(申込先着順)
申込先 3月8日(木)朝9時～
公民館☎(572) 5141

公民館運営審議会報告

2月13日(火)第16回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名出席。傍聴者2名。教育長と公民館長人事についての意見交換
教育長より、率直な意見・要望を聞きたいとのこと。望ましい公民館長像等を述べられた。各委員から、ローテーションへの配慮、相応しい人の推薦の要望等を伝えた。教育長も理解を示された。また国立市公民館処務規則第3条の解釈について質疑が行われた。
前回事務録確認
報告事項
○委員より
人事要望に関する教育長、市長との面談状況に関する報告あり。文部科学省機構改革について意見書を出したいとの提案は別途審議。
○公民館だより編集研究委員会
受講参加者の声が多く載り好評であった。「ふりかえる会」について、新鮮な意見を自由に討論する場にしたらどうかとの感想あり。
○社会教育委員の会
国立市における生涯学習振興・推進計画(仮名)に関する今期の社会教育委員の課題案について、集中チェックが行われた。
○東京都公民館連絡協議会
第54回東京都公民館研究大会を2月3日(土)開催。第2分科会で、国立市は「みんなで話そう公民館講座」を発表した。
次回定例会は3月27日(火)夜7時15分から。傍聴歓迎。(大井)

今月の公民館 (3月、4月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 13日(火) ~* 「はじめての銅版画」展
- 17日(土) 朝 地震だ! どうする? 体験ゲームLabo
- 18日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
- 18日(日) 昼* 版画をつくってみよう!
- 24日(土) 朝 わたしたちのワークライフバランス
- 25日(日) 昼~一橋大学連携講座
- 25日(日) 昼* CINEVOX公民館映画会
- 25日(日) 昼* 多文化共生事業 世界の子どもたち
- 31日(土) 昼* 図書室のつどい
『それでもパレスチナに木を植える』
- 4月1日(日) 朝 男性の料理入門 春休み特別企画
- 1日(日) 昼 子ども・若者を支える“つながりワークショップ”
- 12日(木) 昼* 認知症とともに生きる
- 14日(土) 昼 病気の子どもの「きょうだい」支援

ひろば

(7ページにもあります)



メサイア全曲演奏に団員募集中

くにたち市民合唱団が、19年春に予定のメサイア全曲演奏会に向けて団員募集中。指導・石原章弘。毎水曜コースの他、4月14日(第2・4・5土曜午後2時)コース有。日時 3月7日(水)夜6時半。場所 芸小ホール 音楽練習室他。連絡先 川上080(6602)7834

くにたち国際友好会 WING

三月の国際理解講座はタイの文化・観光地紹介や日本との係わりについて、パヤオ大学観光科博士課程在学中のヨシダ・ドウアンダオさんに講演していただきます。日時 3月15日(木)夜6時半。場所 一橋大学 国際交流会館。連絡先 和田090(3497)2110

春季ソフトテニス市民大会

参加資格は市内在住、在勤在学ラブ、参加費500円(高校生200円) 中学男女無料 3月18日(日)雨25日(日)一般男女シニア6月3日(日)雨10日(日)申込締切は中学生3月6日(火)一般男女、シニア5月20日(日) 場所 広場テニスコート。連絡先 加藤(572)4728

デジタル写実写真展と案内

三月二十日(火)九時から二十四日(土)十二時まで写真展を開いています。私達クラブは高齢者を中心に活動し、毎月二回撮影会、一回の合評会を行っています。日時 3月20日(火)~3月24日(土) 場所 公民館 市民交流ロビー。連絡先 佐藤(576)7709

マトリョーシカの会コンサート

ゲストは歌手の山之内重美さんです。ゲスト演奏のほかにも参加者全員でロシアや日本の歌を歌います。見やすいカナ付の楽譜もあります。資料代500円。日時 3月24日(土)昼3時~4時半。場所 公民館 地下ホール。連絡先 大貫(572)5214

ともに学ぼう 人間の歴史

「学び舎」の歴史教科書は、歴史を教えてきた教室から生まれました。中学校の元教員の檜崎由美さんの模擬授業を体験し、教科書編纂に関するお話を聞きます。日時 3月24日(土)昼1時~3時。場所 公民館 集会室。連絡先 スペースF(507)4414

「かよう会」へのお誘い

人物クローッキーの活動をしている仲間の作品展です。自由に制作し、発表します。人物クローッキーの場所をお探しの方、どなたでも参加できます。御連絡下さい。日時 3月27日(火)~4月1日(日) 場所 公民館 市民交流ロビー。連絡先 長田(326)0821

〈サークル訪問318〉 茶香会

何ったのは今年に入って最初の稽古「初釜」の日。

床の間には椿と雪柳が掛けられている。いつもは当番が準備をするというが、この日は初釜なので全員集合。てきぱきと道具などが並べられていく。

公民館事業にも長年携わっていた「くにたち婦人の会」の文化サークルの一つとして誕生。婦人の会の解散後も活動を続ける、五十年の歴史がある裏千家の茶道サークルだ。道具は当初からの物も受け継いで使っているという。

「昨年までいらした大先輩が三人抜けられて、私たちも心細いのですが」と中西弘子さん。現在は五人のメンバーで教え合いながら「お茶に親しむ」をモットーに活動している。

今年の初釜は吉田佐知子さんが台子点前で、まず濃茶を点てた。この日は新年らしく新しい青竹の茶筌で、緑色が美しい。

お点前が進む凛とした空気の中、「花びら餅、フワフワで美味しいわね」の言葉に座が和む。このほかに冬は冷めにくい筒茶碗、夏は

涼し気な葉蓋や洗ひ茶巾など、四季それぞれのお点前で季節感を大切に稽古をしている。

「以前にお茶をやっていた、またやりたいと思ひ入れてもらいました」「忙しい毎日の中でホッとするひと時が持てて、とてもうれしいです」と、自分の時間が出来てもう一度始めた方が多そうだった。

筆者が膝が悪く正座が出来ないことを詫言ると「私もですから大丈夫」と椅子の席を勧められた。「五月から十月の風炉の時期は机と椅子の立礼ですので正座が辛い方でも大丈夫」だそうだった。

また茶道を再開したいという方のぞいてみてはいかがでしょうか。日時 第一〜三金曜9時半〜12時 場所 公民館 和室。連絡先 中西(573)3420 (文・写真 西尾万樹)



初釜らしく凛とした雰囲気